

調査概要

- ◆調査テーマ 高校3年生の学習や生活、進路選択についての意識と実態
- ◆調査方法 郵送法による自記式質問紙調査
- ◆調査時期 2015年3月～4月上旬
- ◆調査地域・対象

全国の高校3年生(2015年3月時点)

配布数:735 有効回収数:483 有効回収率:65.7%

*東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 共同研究「子どもの生活と学び」研究プロジェクトの調査モニター対象。

◆調査項目

学校の授業での経験／勉強時間／成績／高校生になってからの知的経験や体験／様々な活動の取り組み状況／4月からの進路／進路を意識した時期／進路決定の参考にしたこと／進路決定に影響した人／進路選択時の悩み／大学でしたいこと／大学受験に対する考え／入試方法／希望した進路の実現度／進路選択における主体性／高校生活の振り返り／将来展望／「自立」に対する高校生の自己評価など

分析やデータを読み取る際の注意点

- ① 回答者483名のうち300名(62.1%)が、4月からの進路を「四年制大学に進学(医学、歯学など六年制課程や海外の大学を含む)」と回答しており、公的統計と比べて大学進学率が高い。そのため、全体データの掲載は最小限にとどめ、進路別などの分析を中心にした。
- ② 高校の学科別の分析
 - ・普通科については、回答者が記入した学校名をもとに偏差値を特定し、3グループに分類した(学校名が無回答・不明の場合は除いている)。高校偏差値52以上を「普通科Aグループ」、高校偏差値45～52未満を「普通科Bグループ」、高校偏差値45未満を「普通科Cグループ」としている。高校偏差値は、「進研模試」2014年度3年6月回を使用。
 - ・専門・総合学科は、「工業科」「商業科」「総合学科」を合わせている。「その他」は除いている。
- ③ 大学の偏差値帯別の分析
 - ・4月からの進路について、「四年制大学に進学(医学、歯学など六年制課程や海外の大学を含む)」を選んだ回答者については、回答者が記入した大学・学部・学科名をもとに大学偏差値を特定し、3グループに分類した(無回答・不明は除いている)。大学偏差値65以上を「四年制大学(偏差値65以上)」、大学偏差値55～65未満を「四年制大学(偏差値55～65未満)」、大学偏差値55未満を「四年制大学(偏差値55未満)」としている。大学偏差値(入試難易度)は、2014年度第3回ベネッセ・駿台マーク模試・11月(A判定基準[合格可能性80%以上])を使用。
- ④ 進路別の分析をする際、「短期大学に進学」「その他」「卒業後どうするか決まっていない」を選んだ回答者は人数が少ないため、図表から省略している。また「正社員・正職員として就職」「正社員・正職員以外の就職」の回答を合わせて、「就職」としている。
- ⑤ 「四年制大学に進学(医学、歯学など六年制課程や海外の大学を含む)」は本文中では、「四年制大学に進学」と示している。
- ⑥ 「大学等の進学準備(受験浪人、予備校への進学を含む)」は本文中では「大学等の進学準備」と示している。
- ⑦ 本文中では高校3年生を「高3生」と示している。
- ⑧ 図表において、有効回収数すべてを集計している場合は、人数を示していない。
- ⑨ 図表で使用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。

基本属性

①性別



②通っている高校(設置区分)



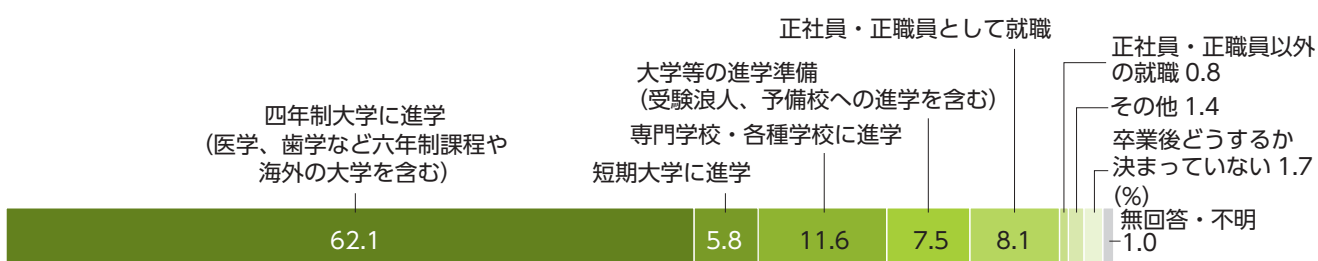
③通っている高校(課程)



④通っている高校(学科)



⑤4月からの進路



目次

調査概要	2	④進路選択時の悩み	11
基本属性	3	⑤大学でしたいこと	12
1. 高校での学びや生活		⑥大学受験に対する考え	13
①学校の授業での経験	4	⑦希望した進路の実現度	14
②勉強時間	5	⑧進路選択における主体性	15
③知的経験や体験	6	3. 高校生活の振り返り	16
④様々な活動の取り組み状況	7	4. 将来展望	17
2. 進路選択		5. 高校生の「自立」	18
①進路を意識した時期	8	調査企画・分析メンバー	20
②進路決定の参考にしたこと	9		
③進路決定に影響した人	10		